

③劣化部の除去

劣化の状態から 100 mmのハツリを標準として施工した。使用機械は、コンプレッサー（35～50ps）とチップパー、ピック、ブレーカーの組合せで実施している。状況に応じて、フェーノールフタレイン試薬を使用し、試験を実施しながら作業を実施した。



写真 3.28 劣化部除去状況



写真 3.29 試薬検査状況

④清掃

ハツリ面を高圧洗浄機にて十分に清掃し、ハツリ面に浮きがないかを確認した。必要に応じては再度除去を実施するが、機械作業とした場合深掘れとなる場合が懸念されたことから、手ハンマーによる作業とした。

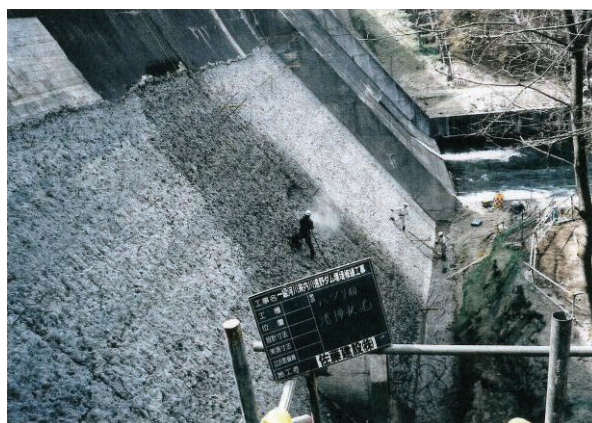


写真 3.30 ハツリ面洗浄状況

⑤サシ筋

電動ハンマードリルにて、ハツリ面より削孔しブロア及びブラシにて孔内を清掃後、ケミカルアンカーの打設を実施した。

※サシ筋仕様

- ・D13 異形棒鋼：L=700 mm（出 400 mm・入 300 mm）



写真 3.31 アンカー打設（削孔）



写真 3.32 アンカー打設完了

⑥溶接金網設置

サシ筋に溶接金網をセットする（コンクリート表面のひび割れ防止）。

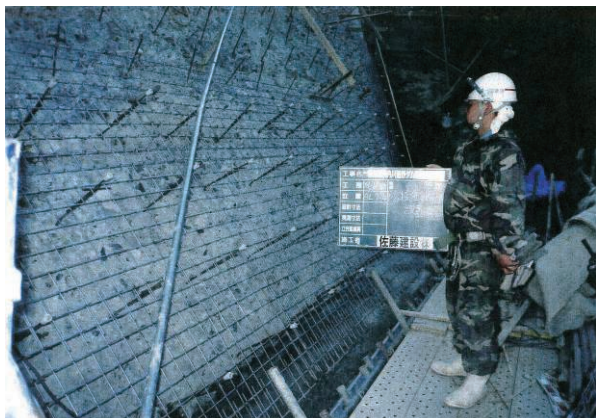


写真 3.33 接金網設置完了



写真 3.34 溶接金網かぶり確認 t=100 mm

⑦型枠設置

ダム天端の車道が 2.5m と狭隘なことから、クレーンの配置箇所が制限される。この事より、今回使用した型枠については、重量が軽く転用が比較的容易で、強度も十分であるスルーフォーム枠を使用した。この枠材は、枠部が半透明で打設時のコンクリートの状態を確認できる利点がある。また、スルーフォームの設置が不可能な場所には、木製型枠を使用した。



写真 3.35 型枠設置完了

⑧目地工

既設ブロックジョイント部分は、劣化部ハツリ完了後深さ 150 mm 迄 V カットし、膨張性止水板（厚さ 10 mm）を先行ブロックのツマ部に設置する。

⑨下地処理工

新旧コンクリート面の付着性を上げるため、ハツリ面にコンクリート改質剤（C S 2 1 : ㈱アストン）を塗布した。



写真 3.36 目地部処理完了



写真 3.37 コンクリート改質剤塗布